校長室だより～燦燦～ №１

梁川高校燦燦と

2019.11.11

１１月２日（土）午前中に梁川高校創立百周年記念式典が、午後には記念公演が行われた。記念公演では、本校を昭和２９年３月に卒業された村上敏雄さん、奥様、お二人の息子さんが、村上ファミリーとしてオペラを披露してくださった。プログラムの中で、ご長男の村上宣也さんが「千の風になって」を、ご二男の村上敏明さんが「愛燦燦」を歌ってくださった。その場で聞いていた私の目には涙が浮かんできて抑えるのが大変だった。

平成３１年４月より梁川高校に勤務するようになり、今まで「校長だより」を４７号発行してきた。名称は校長だよりとなっているが、実質的には「学校だより」である。作成しているのが校長だから「校長だより」としている。以前から感じていたことだが、学校だよりとして発行していると、校長としての私の考え、思い、願いなどは、ほとんど入らなくなる。それが嫌だった。何か中途半端で毎回悶々としたものが残っていた。

２学期になり、これは学校だよりとしての「校長だより」とは別に好きなことを書き綴ることができる「校長室だより」のようなものを出すしかないという思いが日に日に大きくなっていった。そのタイトルをずっと考えていたが、１１月２日（土）に「愛燦燦」を聞いて涙し、考えが固まった。タイトルは「燦燦」がよいと。「燦燦」とは、美しく光り輝くさま、鮮やかに輝くさまという意味である。太陽の光が燦燦とふりそそぐ、などのように使う。百年の歴史を有する梁川高校は、あと３年半で長い歴史に幕を下ろす見通しである。最後の輝きを放つように、生徒が、先生方が、地域が今まで以上に光り輝けるようにと考えた。

小椋佳さん作詞、作曲の名曲、「愛燦燦」の歌詞には、こんなフレーズがある。

わずかばかりの運の悪さを恨んだりして　人は哀しい　哀しいものですね
思いどおりにならない夢を　失くしたりして　人はかよわい　かよわいものですね
心秘そかな嬉し涙を　流したりして　人はかわいい　かわいいものですね

５０年くらい生きてくると、この詩の意味がわかるような気がする。この詩が重く響いてくる。高校生の皆さんには、まだまだイメージできないであろう。小椋佳さんは、こうも言っている。

人生って　不思議なものですね
人生って　嬉しいものですね

生きていると、喜怒哀楽という言葉があるが、実に様々なことが起きる。まるで自分が試されているかのように。「人間万事塞翁が馬」という言葉もあるが、まさにその通りである。個人差はあるが、辛いことや苦しいことのほうが多いのではないかと思う。そんな日常の中に、ちょっとした嬉しい出来事や喜びが生まれる瞬間がある。それが大きい。

梁川高校のホームページには毎日２００から３００のアクセスがある。生徒数１００名あまりの学校にもかかわらずである。情報発信の手段としては有効なものであると考えている。「校長だより」は、生徒の活動を中心とした学校の様子を伝えるものとして今後も毎週１号ずつ発行していく予定である。一方「校長室だより～燦燦～」はほぼ日刊で出していくつもりである。今日は偶然にも１１月１１日である。何か新たなことを始めるにはいい日なのかもしれない。